

国民は怒っているぞ！ 国民の信を問わず、選挙を逃げまくり 「勝手に政治をやる自民党」には 二度と政権を渡してはいけない。

「民主党」と「自民党」のマニフェストが出そろって、ようやく、衆院選のムードは本格的になってきた。

「マニフェスト」：この聞きなれない言葉は、「政権公約」とでも解釈してよいだろう。

どちらの党が衆院選に勝っても、衆議院議員の任期は4年だから、4年間に実行・実現できる政策を掲げて選挙に臨むのが筋である。

前回の衆議院選挙は小泉純一郎首相が「小さな政府」を掲げ、「郵政民営化は是か非か」を問うて、見事すぎるほどの「自民党」大勝利をもたらし、小泉チルドレンを大量発生させている。小泉純一郎首相のやりくちは郵政民営化反対の議員にたいして「刺客」をおくるといふ非情なもの。国民は、この段階で小泉自民党の非道さ(ファッショ)に気付くべきだったのだが、小泉劇場の観客はこの真実を見落としていた。小泉純一郎首相が首相をやめてから、安部、福田、麻生と、国民に選挙で信を問うことなく、自民党内部でタライ回し

で首相をきめ、最後の麻生首相はズルズルと総選挙を引き延ばし、やっと解散になったのだから、国民としてはもう二度と自民党に政権を渡してはいけないと思うのは当然のことだ。

「民主党」こそ信頼の 「保守本流」

鳩山由紀夫民主党党首に岡田克也幹事長。この二人の真剣な取り組みは誠に清々しく頼もしい。この二人の誠実さこそ、国民が絶えて久しく政治家に待ち望んでいた姿勢である。それに引き替え、自民党と公明党のいやらしさは異臭芬芬で鼻もちならない。我々国民が支持してきた自民党はいつたどこへ行ってしまったのだろうか？

ハッキリ言うようだが、人材はみんな自民党から出て行ってしまい、カスしか残っていないのか？

いや、まだ表舞台に出てきていない自民党の先生方に人材はいる。しかし、彼

らの活躍の舞台は数年は後のような気がする。

それより、今は民主党が旬である。

「民主党」は旧自民党「田中派」が率いる「保守本流」の正統派だ。

鳩山由紀夫民主党党首に岡田克也幹事長を中心にした若い力で、この国の政治を思う存分に正して行ってほしい。国民にやさしい、けして弱者を切り捨てない、国民生活に不安のない、世界に誇れる立派な国造りを国民は望んでいる。地球にやさしい、環境を大切にしたい新しいエネルギー、世界をリードする環境・エネルギー技術の確立。グリーン産業の育成。「世界へ平和を」。やるべきことはいくらでもある。

「民主党」の マニフェストに期待する

この国の少子高齢化問題は自民党政治では解決されてこなかった。

子供を持ちたい若い二人に経済的な負担が重くのしかかっていたのは少子化が改善されるわけではない。ずいぶん前から、出産は病院というのが普通になった。病院へゆくのはいい。ただし、子供が生まれても出産費用が高くては病院の支払いが気が気ではない。結構な負担だ。これでは若い二人が子供をもつのを躊躇する。

「民主党」は出産時に55万円の一時金を支給。自己負担なしに出産できるようにする、としている。

「子育て」も大変だ。そこで、子育て支援として「子ども手当」、中学卒業まで子

供一人当たり月額2万6千円を支給する。2009年度に廃止された生活保護の母子加算を復活。父子家庭にも児童扶養手当を支給する。

無資源国である我が国の唯一の資源は「教育を受けた国民」である。

誰でもが「義務教育」を終了し、「高校・大学」教育でさえ義務教育化されてきていることが我が国の強みであり、経済成長の原動力であった。

この流れを止めてはいけない。

「民主党」は公立高校の実質無償化と大学の奨学金拡充をもちこんでいる。公立高校生のいる家庭には授業料を、私立高校生のいる世帯には年12～24万円を助成する。大学や専門学校生には希望者全員が得られる新奨学金制度を創設する。

霞が関改革として、「子ども家庭省」を設置する。

「民主党」の社会保障

消えた年金「消された年金」問題を国家プロジェクトとして2年間、集中的に取り組むことを表明。合わせて、年金の新制度を創設。

雇用政策では非正規労働者を救済するため、雇用保険の適用を大幅拡充し、31日以上の雇用期間があるすべての労働者に拡大する。雇用保険と生活保護の隙間を埋める第二のセーフティネットを整備。「求職者支援法」をつくり、月額10万円の手当付き職業訓練制度を創設、誰もが、安心して暮らせる社会をめざす。